

情勢報告

夢の「25 t 超え」を目指すナスの現地実証がスタート！



生育状況について園主と
情報共有する普及指導員（左）

安芸市で 9 月から農業改良普及課が企画・提案した環境制御技術に関するナスの現地実証が始まりました。

今年は、これまでに成果のあった炭酸ガス局所施用や白マルチに加え、2 本仕立て、従来よりも高めの夜温管理、日射比例での点滴灌水を検討します。これらの組合せによって樹勢を維持しながら温度を上げられると、果実肥大や葉・花の展開が早まることで、飛躍的な増収が期待できます。

今後は、これらの収量性や経済性を検証するとともに、各部会の現地検討会で本実証ハウスを活用して結果を広く周知し、環境制御技術の普及をすすめていきます。

環境制御技術で限界収量を突破しましょう！芸西ナス部会総会



限界収量突破を力説する
環境制御技術普及推進担当

8 月 25 日に芸西ナス部会が芸西集出荷場で総会を開催しました。生産者 39 人、関係者 10 人が参加し、27 園芸年度の事業報告や役員改選、出荷選別ラインの更新について協議しました。

農業改良普及課は、27 園芸年度に行った炭酸ガス局所施用と日射比例灌水装置の設置による現地実証での 22 t / 10 a 超えの増収事例を紹介し、「25t/10a の限界収量を突破して、後継者を増やしましょう！」と呼びかけました。

芸西ナス部会では、28 園芸年度から 13 人が新たに炭酸ガス発生機を導入する予定です。

農業改良普及課は、今後も J A と連携して新たに機器を導入する農家に重点指導を行い、農家とともに限界収量突破を目指していきます。

環境・安全・安心点検シートの改善項目の周知



特に重点 3 項目の再確認を！

9 月 15 日、唐浜集出荷場園芸研究会の総会が開催され、15 人の出席がありました。平成 28 園芸年度の事業計画が承認され、向こう一年間の活動方針が決定されました。

農業改良普及課は、28 園芸年度の実証ほの設置計画と「環境・安全・安心点検シート」のうち、特に重点 3 項目（土壌分析に基づいた施肥管理、農薬の適正管理、ほ場の衛生管理）について、再確認をし、栽培に取り組むように指導しました。

本年度は点検シートの回収がやや遅れており、大至急回収するように、J A 土佐あき中芸営農センターと協力してすすめていくとともに、未達成項目を改善するように指導していきます。

情勢報告

芸西地区でハスモンヨトウトラップの設置



トラップを設置する小学生

9月2日、農業改良普及課は営農指導員や芸西村の青年農業士10人と協力し、芸西小学校の3年生40人と一緒にハスモンヨトウ捕獲トラップの設置を行いました。

農業改良普及課は芸西村のほ場で捕獲トラップの仕組みやトラップの設置方法を説明しました。その後、小学生は青年農業士に手伝ってもらいながらトラップを設置しました。作業中、小学生から「野菜に悪さするからいっぱいとれたらえいねえ。」と話があり、害虫防除の関心を高めることが出来ました。

農業改良普及課は、今後も、青年農業士と連携しながら「子供の食育につながる活動」を支援していきます。

J A土佐あき芸東集出荷場研究会ラッキョウ部会通常総会開催



ラッキョウ部会総会の様子

8月28日、室戸市日南（ひなた）集会場で、芸東集出荷場研究会のラッキョウ部会通常総会が開催されました。今年、吉良川集出荷場が羽根、室戸の2つの集出荷場と統合され、研究会組織再編成後、初めての総会となりました。生産者11人全員が参加し、27園芸年度出荷報告や役員改選等について協議されました。

農業改良普及課は28園芸年度の作に向けて耕種的防除方法を中心とした病虫害対策や、普通畑と砂地での施肥量の違い等について指導しました。生産者は特に温湯を用いたネダニ対策に関心を持ち、「どうしたらできるか」と活発に意見交換しあっていました。

今後も現地検討会で、ラッキョウの増収を目指して指導していきます。

J A土佐あき芸東集出荷場芋部会芋出荷検討会



芋部会芋出荷検討会の様子

9月5日、J A土佐あき吉良川支所で、芸東集出荷場研究会の芋（サツマイモ）部会芋出荷検討会が開かれました。生産者8人が参加し、27園芸年度出荷報告や28園芸年度出荷先検討、役員改選等が行われました。

農業改良普及課は西山台地のハスモンヨトウフェロモントラップ調査の中間報告をしました。ハスモンヨトウ成虫捕獲数の増加がみられ、薬剤散布の必要性を説明しました。生産者からは「殺虫剤を散布しなければ」といった意見が出され、有効な薬剤等について話し合われました。

農業改良普及課は今後も定期的にトラップ調査を続け、効果的な薬剤防除につながる情報を提供していきます。

情勢報告

柚子部北川支部で勉強会を開催



勉強会の様子

8 月 27 日、J A 土佐あき柚子部北川支部の部員を対象に栽培勉強会を開催し、20 人の参加がありました。

農業改良普及課は、作柄及び病害虫の発生状況等の情報提供や、秋期以降の栽培管理、農薬の基本的な使用方法等について説明しました。説明後に参加者から「害虫の防除適期は？」「どの農薬が効果が高いのか」等々、多くの質問や意見が出され、生産意欲の高さが伺える活発な勉強会となりました。また、生産者同士でも盛んに情報交換が行われました。

農業改良普及課は、今後も J A と連携し、ユズ産地の維持・活性化に向けた指導及び支援を実施していきます。

ユズ栽培に関する研修会



研修会の様子

9 月 9 日に J A 馬路村は、ユズ部員を対象に栽培研修会を開催し、43 人の参加がありました。

農業改良普及課は、施肥や土づくりの大切さについて栽培管理のポイントとあわせて説明しました。その後の意見交換では、表作と裏作の時期別の施肥の考え方、農薬の散布時期の目安等について盛んに質問がありました。

J A 馬路村では、数年前から加工用原料の青玉、黄玉（皮）の要望が多くなり、それに対応する農家数も増えてきました。農業改良普及課は、J A と協議しながら、生産者の生産・経営安定のために果皮利用に対応した栽培暦や栽培技術指導を見直して行きます。

今年の酒米の出来は？ 蔵元参加の現地検討会



蔵元に見られゆうと思うと緊張するねえ

9 月 11 日に安芸市東川地区酒米研究会の現地検討会を東川地区で開催しました。今回は東川産の「吟の夢」を使用している蔵元 4 社が参加し、全員のは場を一筆ずつ、一緒に見て回りました。巡回後、J A 担当から刈取時期を提示し、農業改良普及課は品質調査の実施と、出荷時のサンプリングについて説明し、併せて蔵元から要望のあった今年の出来と天候についての説明を行いました。蔵元からは、「吟の夢」を使った自社製品が高く評価されているが、顧客の要望に添えていくためにはもっと多くの「吟の夢」が必要であることが生産者に伝えられ、生産意欲はアップしたと思われます。

農業改良普及課は、今後も東川産酒米の品質と収量向上に向けて支援していきます。

情勢報告

産地提案書作成市町村の担い手育成センターへ事例調査と意見交換



長期研修生に対する就農支援の取組紹介

農業改良普及課は、管内の市町村に農業担い手育成センターへの事例調査と意見交換を呼びかけ、9月9日、産地提案書を作成済の安芸市、奈半利町、田野町の3市町から計5人の職員が出席しました。

当日は、農業担い手育成センターの研修メニューや研修後の就農状況、長期研修生が抱える悩みや希望品目などを確認しました。就農地を検討中の長期研修生5人も交えて、3市町から産地提案書や就農支援の取組を紹介することで、長期研修生に安芸管内の農業や就農支援を認識してもらうことができました。

長期研修生を産地に呼び込めるように、今後も担い手育成センターと情報を交換し、関係機関が連携して就農支援につなげていきます。

新規就農者先進事例研修会の開催



研修会参加者による意見交換

9月10日に、J A土佐あき本所で農業改良普及課主催の新規就農者先進事例研修会を開催し、新規就農者や研修生、関係機関等の計26人が出席しました。

講師には就農5年目になる安芸市の濱口佳裕氏と芸西村の白石裕二氏を招きました。就農に至るまでの経過を苦労話も交えて発表していただき、受入農家や周囲の方々とのつながりで、農地や資金面での課題を乗り越えて就農した体験談を聞くことができました。アンケートによると、新規就農者や研修生には好評で、身近な新規就農者からの事例発表を通して学んだことは多かったようです。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して研修会などを実施し、研修生の就農支援や就農後の経営発展につなげていきます。

奈半利町本村部の集落営農を考える会を実施



意見交換会の様子

8月12日に奈半利町役場で、奈半利町本村部の集落営農を考える会が開催され、本村部で集落営農に関心の高い生産者7人と関係機関が出席しました。

会では、DVDによる県外組織の事例紹介の後、奈半利町役場から地域農業の現状を、農業改良普及課は集落営農の必要性を説明し、意見交換を行いました。参加者からは、「10年先を考えて組織で農地を守っていく仕組みを作りたい」「今日参加していない地域の水稻受託農家も集めて会をしたい」等の意見があり、本村部での集落営農組織設立に向けて有意義な意見交換ができました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、集落営農組織設立に向けて支援をしていきます。（文字数：284）

情勢報告

集落営農塾（先進地視察）の開催



集落営農塾（先進地視察）開催状況

8 月 21 日、農業改良普及課が企画し、既存集落営農組織、中山間地域等直接支払制度協定締結組織の代表者及び関係機関の 17 人が黒潮町と四万十市の集落営農組織先進地視察を実施しました。

黒潮町の農事組合法人荷稻米・米クラブでは、今後担い手を確保するため施設ニラを開始することや、四万十市の田野川甲集落営農組織では、ナバナ栽培を計画し地域の雇用を行う等前向きな取り組みを知ることができました。

農業改良普及課は、視察参加者のアンケート結果により、「集落営農の話聞いてみたい」という意向がある集落に対して関係機関と共に集落営農を推進していきます。

東大野集落営農組織役員会（田野町）



役員会の様子

平成 26 年度の米の販売金が入金されたのを受けて、9 月 10 日に東大野集落営農組織が役員会を開催しました。

会では、未払金の精算を行い、26 年度の収支決算（案）や、27 年度の予算書（案）を作成しました。

また、9 月 20 日に集落の草刈り作業後に、決算、予算及び執行状況を協議、報告するとともに、広報を作成し 8 月までの組織の活動状況について周知しました。

今後、農業改良普及課では、組織の運営管理やビジョン作成の支援を行っていきます。